

平成29年度 東京都立足立西高等学校経営報告

校長 加藤 泰弘

今年度は着任一年目の校長として、基本的に前年度の経営計画を踏まえ、授業改善、各分掌が学年全体を牽引する組織力の強化、進学率の向上及び募集対策の充実等を主な目標として学校経営を進めた。特に平成18年度に設置した「特進クラス」制度について、課題を整理し、改善によってより生徒のニーズに応じていくシステムを構築した。これを「特進システム」と名付け、次年度より進めていく。

授業改善は決して急激ではないが、確実に行われており、生徒の授業評価の向上につながった教科・科目も見受けられる。

四年制大学の進学率向上は、大学希望から専門学校に安易な気持ちで変更してしまう現状を何とかしようとして掲げた目標だが、達成したとは言い難い。引き続きキャリア教育を充実させ、3年間の体系的な進路指導の構築を図っていく。

募集対策の充実により、学校説明会等の来場者は年間トータルで昨年度の実績を上回った。入選倍率は昨年度実績をわずかに下回ったが、生徒の8割以上が足立区民である本校において、同区内中学3年生の減少幅程の落ち込みはなかったのも、善戦したと評価している。

次年度も新学習指導要領を踏まえた教育課程の検討から組織力の強化まで課題は多いが、安全安心な学校の中で、生徒の学力向上及び希望進路の実現を目指し、総力を挙げて取り組んでいく。

今年度の取組目標と成果及び課題

取組目標と方策	成果と課題
<p>【学習指導】</p> <p>○意欲的、主体的に取り組める授業の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要な知識の伝授と理解を前提にアクティブラーニングの手法を取り入れ、生徒が主体的に考え、表現する授業を展開する。 ・チャイム始業、居眠り防止の徹底を図る。 ・ICT機器や視聴覚教材を効果的に活用し学習意欲を喚起すると共に理解を支援する。 ・授業ミニマムを遵守し、質の高い授業準備を定着させて学習環境をさらに向上させ、個に応じた指導推進と基礎学力定着 ・習熟度別の目標を明確化し、生徒個々に応じて多面的に学力アップを支援する。 ・本校独自の特進システムの課題を整理し、生徒の実態に合わせたものに改善する。 ・学力スタンダードを活用した目標を設定し、授業内容の共通化を図る。 ・読書指導に力を入れ、読書による知識と教養の向上を図る。 <p>○学習意欲向上、学習習慣定着</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土曜事業を活用し学生チューターによる支援を継続実施する。 ・小テスト、週末課題等の工夫により家庭学習を定着させる。 ・課題発見型の学習体系について検討し、実践 	<p>【学習指導】</p> <p>《成果》</p> <p>授業改善に多くの教科が取り組み、学び合い、ペアワーク、グループ学習等、アクティブラーニングを意識した授業が増えた。また、ICTを活用した授業も増加し、生徒の授業評価における肯定的評価に結びついている。</p> <p>習熟度授業は能力に応じた授業が定着し、生徒の評価も高い。</p> <p>平成18年度より実施している「特進クラス」について、課題を整理して見直した結果、今年度をもってクラス編成を終了し、自分の希望に合わせて選択し、受講する形に改善した。</p> <p>《課題》</p> <p>授業改善には教科間、教員間で温度差があり、個々の意欲に委ねる面が否めない。家庭学習の定着、アクティブラーニングの導入と合わせ、学校全体のうねりとなって教科を超えた改善に取り組んでいく必要がある。</p> <p>土曜事業はNPOと連携しチューターの派遣等も実施したが、生徒の利用率が低く、活用し切れていない実態があった。次年度はより効果的に実施していく。</p>

<p>する。</p> <p>【生徒指導】</p> <p>○組織的な品格のある生徒指導の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遅刻激減を目指し、授業時間管理の一層の徹底を図る。 ・身だしなみ指導、遅刻撲滅指導を中核に全校体制でマナーアップ指導に取り組む。 ・生徒のマナーアップ・ウィルアップのための取組みを分掌・学年および個々の教員、生徒個々が実践する。 <p>○安全指導の継続、繰り返し実施による徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報リテラシーの向上のための指導を外部の教育力活用も含めて繰り返し徹底する。 ・自転車利用に係る交通法規遵守の指導を繰り返し徹底する。 ・登下校時および校内安全確保のための多面的な指導を実施し徹底する。 <p>○生徒支援体制の組織化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SCを中核とした生徒支援体制を活用し、多様な生徒に向き合った支援を行う。 ・SCや外部の教育力を活用し教員の生徒支援のスキルアップを進める。 <p>【キャリア教育】</p> <p>○キャリア教育の組織化・計画化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合的なキャリア教育の組織的な実施体制確立に取り組む。 ・「人間と社会」、総合的な学習の時間やHRの活用に取り組む。 ・インターンシップの在り方について検討する。 ・模擬試験、検定試験の受験について計画的に指導していく。 ・SAカードによる目標管理システムを導入し生徒の主体的な高校生活を支援する。 <p>○進路指導の質的向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きめ細かく生徒・保護者への面談等を実施し、個々の生徒への理解と支援に努める。 ・生徒個々の意識啓発と進路準備早期化への方策実施 ・獨協大学との高大連携や公的機関との連携等外部の教育力の活用を推進する。 ・大学進学希望者には大学入試センター試験や一般受験での進学を目標とさせる。 ・自分の希望学科と一致する場合はAO及び公募推薦等も推奨し、支援する。 	<p>【生徒指導】</p> <p>《成果》</p> <p>学年主導型の生活指導体制を改め、生徒部が学年全体を主導する体制作りを目指し、万全とはい切れないまでも全体として変容が感じられる状況になってきた。特に自転車に係る安全指導は新たな取組に着手し一定の成果を上げている。</p> <p>生徒の支援体制として、校内相談態勢を強化し、スクールカウンセラーと連携して生徒、保護者の心の安定に努めてきた。ケース会議の回数も増やした結果、きめ細かな生徒対応のできる態勢が整った。</p> <p>《課題》</p> <p>遅刻指導は生徒部と学年が連携して、全校で取り組んでいるが、実数がなかなか減らず、引き続き次年度への課題となる。遅刻を重ねた生徒に対する罰則的な指導方法に成果は見られるものの、罰則を科しても守らない生徒は本校が行ってきた指導の限界の象徴ともいえ、何らかの対策が急務である。</p> <p>【キャリア教育】</p> <p>《成果》</p> <p>キャリア教育連絡会を中心にキャリア教育の組織化を進めた結果、本校キャリア教育の体系が整理され、組織的な実施体制が整った。</p> <p>インターンシップは、実施による運営負担等増大の課題はあるが、生徒にとって重要な体験機会となるため、都立高校普通科唯一の「一学年全員インターンシップ」として継続していく。</p> <p>進路指導は生活指導同様、学年主導の校内体制を改め、進路指導部が全学年を牽引する形を一年間かけて構築していった。概ね整って次年度に引き継がれていく。各生徒の進路希望実現に向け、進路指導部と学年の連携についても、昨年度以上に図れたという実感がある。就職希望者の就職率100%はその成果の表れである。</p> <p>《課題》</p> <p>インターンシップの運営負担が担当教員に重くのしかかっており、作業分担及び効率化が引き続きの課題である。</p> <p>大学希望から専門学校等への進路希望変更が少なからずあり、それぞれに事情があって「安易」</p>
--	--

- ・安易に専門学校を選択させないという前提で指導を進めていく。
- ・就職希望者には、希望に沿い継続安定性の見込まれる就職内定を目指させる。
- ・早期からの進路準備のための多面的な講習、指導を実施する。

【特別活動】

○部活動のさらなる魅力化と多様化

- ・部活動の加入率及び定着率の向上を目指した取組みを実施する。
- ・運動系部活動では望ましい生徒モデルの育成を主眼とする。
- ・文化系部活動では地域に発信し貢献できる生徒の育成を目指す。
- ・部活動・生徒会による地域交流・地域貢献活動を質・量ともにさらに充実させる。

○学校行事

- ・体育祭、文化祭を中心に生徒主体の行事企画運営を推進する。
- ・生徒の安全を第一とした行事運営を原則として検証と改善を図る。

【人材育成】

○OJT 推進

- ・個々の目標を明確化し、意図的・計画的にOJTを実施する。
- ・教員間の相互授業参観を積極的に奨励し、自己研鑽に努める。

○研修の奨励

- ・校内研修の機会を増やし、外部機関による研修への参加等の自己啓発活動も奨励する。

【募集対策活動】

○利用者本位の視点での募集対策活動の改善

- ・ホームページを活用した積極的な情報発信の推進と更新頻度のさらなる向上
- ・学校見学会、説明会の一層の充実
- ・組織的戦略的にマーケティングリサーチを継続し活用する。

とは言えないまでも現状を検証する必要性がある。

特進システム実施教科に統一シラバスがなく、内容に不透明な部分があったため次年度はシラバスを公開し、進学のための授業を確実に進めていることを喧伝する。

【特別活動】

《成果》

部活動の定着率は全体としては前年度を下回ったが、一学年の定着率が高く、「体験入部義務付け」の成果となった。

学校行事、ボランティア活動等において、部活動単位での協力が得られ、各部活動の積極的な運営支援の原動力となった。

日常的な安全対策が功を奏し、重大事故はいわゆるインシデントも含め、一件も発生しなかった。

《課題》

引き続き部活動定着率の向上及び重大事故発生0を目指し、取り組んでいく。

【人材育成】

《成果》

主幹教諭、主任教諭を中心とした意図的、計画的なOJTを進め、着実に若手の力を伸ばしていった。

校内研修を年間行事に組み入れることで確実に研修を実施することができ、教員の高い参加率も担保できた。

《課題》

外部機関による研修参加回数の増加が大きな課題の一つである。

【募集対策活動】

《成果》

外部相談会、説明会等への積極的な参加により、相談者数を20%増加させた。入選倍率は区内中学生の減少率に比べて現状維持にとどめた。

《課題》

ホームページをさらに充実させる必要がある。本校に興味を持った方の多くが最初に見るであろう情報源として、まだまだ改善の余地はある。同時に組織的戦略的なマーケティングリサーチは一層の活用を要する。

<p>【学校経営・組織体制】</p> <p>○校内情報共有の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・TAIMS 等を活用した情報発信、情報共有の推進を図る。 <p>○組織連携の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分掌、学年、教科、経営企画室の相互連携を推進し組織体制の強化を進める。 <p>○危機管理の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人情報管理、サービス、生徒事故等の事故未然防止に総力を挙げて取り組む。 ・外部者の訪問管理を徹底し、安全な学習環境を確保する。 <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・費用対効果の観点を持って、予算の有効活用と適切な時期の執行を徹底する。 ・安全で快適な学校環境を維持するための施設点検、施設管理を徹底する。 ・入学者選抜業務は早期から綿密な準備を進め、教職員の総力を結集し円滑に進行する。 	<p>【学校経営・組織体制】</p> <p>《成果》</p> <p>TAIMS の活用の徹底を図り、情報共有の促進につながるとともに、少しではあるがペーパーレス化が進んだ。</p> <p>企画調整会議での各分掌への連絡および協議態勢の効率的な運営が促進され、経営企画室も含め、組織体制の強化が進んだ。</p> <p>危機管理体制の日常的な取組により、生徒事故、サービス事故、入選事故のいずれにおいても重大事故の発生を防いでいる。</p> <p>《課題》</p> <p>組織体制作りは進んではいるものの、万全ではなく、効率面でまだまだ改善の余地がある。また、組織体制の強化だけではなく、「働き方改革」を意識した業務の見直しも経営上の喫緊の課題である。それらの改善による成果が生徒に反映されるよう、教職員一同取り組んでいく。</p>
--	---

重点項目の数値目標

目標	平成29年度	平成28年度
☆中途退学者5名以内	4名	8名
☆学力不振による原級留置者ゼロ	0名	2名
☆授業満足度肯定回答75%	74%	63%
☆進路指導満足度肯定回答80%	73%	71%
☆各種検定資格取得50名	7名(校内実施分のみ)	45名
☆特別指導ゼロ	13件	12件
☆遅刻前年度比20%減	0.8%増	45%増
☆自転車事故ゼロ	0件	4件
☆年度末の部活動加入率55%(新規目標)	58.8%	—
☆進路未決定者ゼロ ※進学準備を除く	14名	8名
☆センター試験受験者50名	40名	45名
☆四年制大学進学率40%	30.6%	36.4%
☆一般受験による大学合格率50%	20%	23%
☆就職希望者の就職率100%	100%	100%
☆長期休業期間講習参加生徒数延べ500名	790名	417名
☆生徒会・部活動によるボランティア活動20回実施	14回	19回
☆中進対志望倍率1.3倍	1.2倍	1.24倍
☆一次入選応募倍率1.4倍	1.28倍	1.28倍
☆学校説明会参加者2000名	2241名	約1800名
☆学校HP更新150回	150回	120回
☆個人情報管理事故ゼロ、サービス事故ゼロ、入選事故ゼロ	0	0